

廈門語と日本語の音声の比較

— 廈門語話者の日本語発音の習得に視点を置いて

日本語文化専攻D2 朱新建

目次

0. はじめに

1. 廈門語話者の日本語発音の問題点
2. 廈門語の音声の記述について
3. 日本語の音声の記述について
4. 廈門語と日本語の音声の比較
5. おわりに 付：別図Ⅰ，別図Ⅱ，別表Ⅰ，別表Ⅱ

0. はじめに

本稿の目的は、廈門語（中国語廈門方言のこと。以下同）話者の日本語発音の習得に視点を置いて、廈門語話者の日本語発音の問題点を取りあげ、廈門語と日本語の音声の記述に関する先行研究の成果を再確認し、廈門語の音声の実態及び廈門語と日本語の音声の相違点を明らかにすることによって、廈門語話者が日本語発音を習得する際のより効果的な指導法の確立に役立てようとするところにある。

ご協力いただいたインフォーマントは次の通りである。陳さん，女，22才，廈門市出身，名古屋商科大学留学生。曾さん，男，38才，廈門市出身，神奈川大学留学生。林さん，男，32才，廈門市出身，亜細亜大学留学生。王さん，男，29才，廈門市出身，東京学芸大学留学生。石川さん，男，22才，東京出身，名古屋大学学生。久野さん，女，58才，東京出身，主婦。井口さん，女，52才，東京出身，ラジオ日本アナウンサー（ほか数名）。

上記のインフォーマントによる被験資料及び録音テープは朱新建1990、「廈門語の歯茎子音と日本語の歯茎子音との比較研究」（修論，文学部），朱新建1991、「廈門語話者の日本語発音の問題点」（D1認定論文，文学部）を参照。なお，音声表記はIPAに従った。

・主要参考文献・

今田滋子，1989.『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音 改訂版』，凡人社。
羅常培，1956.『廈門音系』，科学出版社。

1. 厦門語話者の日本語発音の問題点

厦門語話者が日本語の発音を習得する際、どんなところに困難を感じるか、下記のように母音と子音と特殊音素とに大別して、厦門語話者の日本語発音の問題点を見ていく。インフォーマントの陳さんは20歳までは厦門市を離れたことがなく、現在、名古屋商科大学に在学中の留学生である。語例は、片仮名表記は被験資料のⅠから、漢字表記はⅡから引用した（朱新建1991を参照）。

1.1. 母音の発音に関する問題点

1.1.1. 非円唇母音 [ɯ] → 円唇母音 [u]

厦門語の音声には、後述のように、母音は単母音が6つの中、円唇の奥舌狭母音の [u] があるが、日本語の母音 / u / のような非円唇の奥舌高母音 [ɯ] がない。従って、厦門語話者は日本語の非円唇の奥舌高母音 [ɯ] を円唇の奥舌狭母音 [u] のように発音する傾向が見られる。これは北京語（注：本稿で言う北京語は中国の民族共通語で、いわゆる「普通話」の音声面のベースとなっている北京方言を指す）でも円唇の奥舌狭母音 [u] であり、日本語のような非円唇の奥舌高母音 [ɯ] がないため、北京語話者にもこのような問題点が見られる。

例： 5, 6センエン [gɔ̃ lokusenɛn] 3センエンクライ [santsɛnɛ̃ŋuraj]
 チウゴク [tɕʰu : goku] スグ [sü̃ gu]
 ドクガク [tokugaku] 圧力 [atsü̃ h̃jok' u]
 宇宙 [uɬ tɕʰu : i] 運河 [uɣ ka]
 各地 [k'ak' u tɕi] 読者 [tok' uɕa]

しかし、後述のように、厦門語の [u] は D. Jones の基本母音（以下は基本母音とする）の [u] ほど円唇ではなく、舌位は基本母音 [u] より低く、やや前よりの [ɥ] であり、北京語の [u] は基本母音に近い円唇の [u] である。従って、厦門語話者が日本語の / u / を発音する時の円唇化は北京語話者ほど著しくない。上記の語例を見る限り、厦門語話者が日本語の [ɯ] を [u] のように発音するのは、軟口蓋子音の調音点とも関係がある。すなわち、軟口蓋子音の調音のために舌の位置が奥にずれる影響である。他の子音と結合して音節を成す場合の / u / は、被験者は [ɯ] に近い発音ができる。

例： カンガエル [k' aɣ ɣ aeru] フッケンショウ [ɸukɪɛ̃ŋɔ̃ɔi]

リュウガク [tʃuːzgak˨˩u] キュウリョウ [kjuːtʃoː]
 由来 [juːlai] 複雑 [ɸuːkutsatsüː]

また、日本語の「す、つ、ず」の母音 /u/ は中舌化した母音 [ü] であるが、この母音は [ɸ], [ɸ̣] でも表記できる音であるとの指摘が見える①ほど、かなり前よりの母音である。北京語の [s], [ts], [ts˨˩] に後続する母音 [i] [ɸ̣] は基本母音の [i] よりかなり後ろよりの母音であり、聴覚上、日本語の [ü] に限り無く近い音である。下記のように、日本語の「す、つ、ず」の発音は厦門語話者には問題にならない。

例： 椅子 [isü] 推進 [süːiɸin]
 印刷 [insatsü] ワズカ [wazüːka]
 小説 [ɸoːsetsü] ツクル [tsüːkuru]

1.1.2. [o] → [ɔ]

日本語の円唇奥舌中母音 [o] は、基本母音 [o] と [ɔ] の中間あたりに位置し、やや前よりの母音である。厦門語のこの円唇奥舌中母音 [o] は基本母音 [o] よりやや前よりに位置し、前舌高母音 [i] に後続する場合、その位置が更に前よりになり、[ɣ] と表記する音になる。厦門語の円唇奥舌半広母音 [ɔ] は基本母音の [ɔ] とほぼ同じ位置である。従って、日本語の [o] は厦門語話者にはむしろ [ɔ] に聞こえることがある。とくに厦門語話者には、日本語の [o] は軟口蓋子音 [k], [g] に後続する場合、[ɔ] のように発音される傾向が見られる。これは軟口蓋子音の調音の影響で、舌の位置が下がって、[o] が [ɔ] になった。そもそも日本語の [o] の位置が基本母音 [o] と [ɔ] の中間にあって、厦門語の [o] と比べてみると、日本語の [o] は基本母音の [ɔ] に近いこともあるからである。

例： 5, 6センエン [ɔː lokusenɛn] 5ジカン [ɔː tɕikan]
 フホウ [ɸuː hɔː] 流行 [tʃuː kɔː]
 旅行 [tʃokɔː] 進行 [ɸiŋ kɔː]

1.1.3. 二重母音の問題点

北京語にみられる [ai], [ue], [uai], [ao] などの二重母音、三重母音は厦門語にもある。日本語のいわゆる二重母音はそれぞれ独立した二つの音節（拍、モー

ラ)の連続したものであり、英語や、中国語の二重母音とはまったく性格を異にするものであるが、英語話者や、中国語話者には聴覚上、二重母音のように聞こえることがある。他の中国語話者と同じように、廈門語話者も日本語の二重母音を一拍、または一モーラのように発音する傾向が見られる。例えば、「はい」、「いいえ」の「はい」は[hai]ではなく、[hɑ̃ɪ]、[hɑ̃^əɪ]のように発音する。一般には歯切れの悪い発音とされるが、そうではなく、これは廈門語話者の廈門語の二重母音による母語の干渉である。

例： タイハン	[t ^ə aɪhan]	ハイケイ	[hɑ̃keɪ]
アルバイト	[adw paɪto]	グライ	[gulaɪ]
大体	[t ^ə aɪt ^ə aɪ]		

1.2. 子音の発音に関する問題点

1.2.1 有声破裂音[b], [d], [g] → 無声無気破裂音[p], [t], [k]

廈門語には有声破裂音[b], [d], [g]がない。これは、廈門語話者は日本語の「バ、ダ、ガ」などの発音をするとき、日本語の有声破裂音[b], [d], [g]を、廈門語の調音点の近い無声無気の破裂音[p], [t], [k]のように発音する傾向から見ても分る。これは同じ有声破裂音をもたない北京語の話者にも同じような傾向が往々にして見られる。

例： 運河	[uŋ ka]	古代	[k ^ə ot:ai]
最大	[saltai]	態度	[t ^ə alto]
停電	[t ^ə eɪten]	電車	[tenŋa]
同時	[to:ɬsi]	道路	[to:lo]
読者	[tok ^ə uŋa]	ピンボウ	[bimpoz]
アルバイトダイ [adw paɪtotai]			

後述のように、廈門語には日本語の有声破裂音[b], [d], [g]と調音点が似ているが、調音方法が違う有声の入破音[b], [d], [g]がある。この入破音は有声であり、破裂も見られるが、調音方法は異なる。

廈門語の入破音を調音の際、口腔にたまっている空気をのみこむようにして喉頭が下がる圧力で声帯を振動させるため、出わたりに行なわれる破裂が極めて弱いものである。従って、日本語の有声の破裂音[b], [d], [g]は廈門語話者には

聴覚上、むしろ厦門語の破裂の著しい無声無気の破裂音[p], [t], [k]に近いと聞きとって、日本語の有声の破裂音[b], [d], [g]をほとんど厦門語の無声無気の破裂音[p], [t], [k]のように発音する。

1.2.2. 有声の破裂音[b], [d], [g] → 有声の入破音[b̥], [d̥], [g̥]

厦門語の入破音[b̥], [d̥], [g̥]は、同じ閩南方言の次方言である中国海南省海口市海口語にも存在する②。前述したように、この有声の入破音[b̥], [d̥], [g̥]は日本語の有声の破裂音[b], [d], [g]と比べてみると調音点も近いし、且つ有声であるが、調音方法は異なる。厦門語話者は日本語の「バ、ダ、ガ」の頭子音の有声の破裂音[b], [d], [g]を発音する際、往々にして厦門語の無声無気の破裂音[p], [t], [k]のようになるが、有声の入破音[b̥], [d̥], [g̥]のように発音する傾向も僅かながら見られる。すなわち、厦門語話者は日本語の有声破裂音を破裂のところを聞きとった場合に無気無声の破裂音のように発音するが、有声のところを聞きとった場合に有声の入破音のように発音する。ただし、数の上では入破音の語例が少ない。

例： 分類	[b̥w n̥lwi]	チュウゴクジン	[t̥ɕ'w :gokt̥ɕin]
シンパン	[ɕimb̥w n̥]	テレビナド	[t̥'elebn̥ado]
ピンボウ	[b̥impo:]	5ニチパン	[g̥o̥ n̥it̥ɕib̥w n̥]

1.2.3. 有声の破擦音[dz], [dʒ] → 無声無気の破擦音[t̥s], [t̥ʃ]

厦門語と同じ閩南方言に属する漳州語、泉州語、台湾語の音声には、有声の破擦音[dz]が存在するとの報告があるが③、筆者の観察では、現代厦門語の音声には有声の破擦音[dz]が存在しない。これは厦門語話者は日本語のザ行、ジャ行などの頭子音である有声の破擦音[dz], [dʒ]を、厦門語の無声無気の破擦音[t̥s], [t̥ʃ]のように発音する傾向が数多く見られることからでも分る。

例： 安全	[ants̥en]	キマズイ	[k̥'imats̥s̥i i]
以上	[it̥ɕo:]	3ゼンエン	[sants̥en̥n̥]
確実	[k̥'akut̥ɕits̥s̥i]	マジメニ	[mat̥ɕimen̥i]
財産	[ts̥ais̥an]	ゼイカン	[tse:k'an]
時間	[t̥ɕi? kan]	ゼンブ	[tsemb̥w]
地図	[t̥ɕ'its̥s̥i]	同時	[to:t̥ɕi]

1.2.4. ナ行音とラ行音の混同

日本語のナ行音とラ行音の区別は、廈門語話者にとっては極めて困難を感じる問題の一つである。廈門語話者は日本語のラ行音を発音する時、鼻音が後続する場合、あるいは後続する鼻音の影響で母音が鼻母音になった場合にラ行音をナ行音のように発音する傾向が見られる。一方、日本語のナ行音を発音する時、頭子音[n]に後続する母音が鼻母音にならない場合に、ナ行音をラ行音のように発音する傾向も見られる。また、先行する鼻音と母音の鼻音化の影響で廈門語話者のナ行音とラ行音の混同も観察できる。こうした鼻音と母音の鼻音化の有無で廈門語話者のナ行音とラ行音の混同が極めて多く見られる。

例：	概念	[gairɛn]	混乱	[k'onnân]
	確認	[k'ak'ukin]	青年	[seilen]
	加熱	[k'aletsù]	新郎	[ɕinnθ:]
	元年	[⁰ gânren]	展覧会	[t'ennãĩk'ai]
	農村	[nõnsõ:] [ro:so:]	ナゼナラ	[latselala]
	勤労	[k'innõ:]	ニッポンガ	[lip:og ga]
	例年	[re:rɛn]	サラニ	[sarahi]
	ナケレバナラナイ	[nakerebalalalai]	ナカッタ	[lak'at:ra]

1.2.5. バ行音とマ行音の混同

廈門語話者は日本語のバ行音を発音する時、バ行音の頭子音に後続する母音は鼻音化する場合に、バ行音をマ行音のように発音する傾向が見られる。逆に、廈門語話者は日本語のマ行音を発音する時、マ行音の頭子音に後続する母音は鼻音化しない場合に、マ行音をバ行音のように発音する傾向も見られる。

例：	質問	[ɕitsiú bon]	農民	[no:ðin] [no:mãĩn]
	6マン	[lokuðan]	バンキョウ	[mẽnkjo:]
	アモイ	[a ^h boi]	3ブンノ1	[sãmũnoitɕi]

1.2.6. ガ行音とガ行鼻濁音の混同④

日本語のガ行音は語中にある場合にガ行鼻濁音のように発音されることがあるが、語頭にある場合は決してガ行鼻濁音のように発音されることはない。廈門語話者は日本語のガ行音を発音する時、語頭にある場合でもガ行鼻濁音のように

発音する傾向が見られる。これも後続する鼻音化した母音や鼻音の影響で頭子音 [ŋ] が鼻音化して, [ŋ̃] になったのである。

例:	学者	[ŋãk uca]	学習	[ŋãk'ucɯ:]
	現在	[ŋẽntsai]	原料	[ŋẽntjo:]
	合理	[ŋõ:ɾi]	外出	[ŋãĩcɯ tsü:]
	ゲシュク	[ŋẽcɯ ku]		

1.3. 特殊音素の発音に関する問題点

1.3.1. 引く音の問題点

引く音は日本語においては意味を区別する上で極めて重要な要素の一つである。中国語の方言, 例えば広東語には, 長母音[a:]のような引く音が見られる⑤。広東語の長母音/a:/は短母音/a/ と対立をなし, 意味の区別をする。しかし, 北京語や厦門語にはこのような長母音と短母音の対立が見られない。従って, 北京語話者と同じように, 厦門語話者は日本語の母音の長短の区別に非常に困難を感じる。

例:	イッシュウケンメイ	[is:rok'enme]	ガッコウ	[ŋãk:o]
	ホショウキン	[hocokin]	家事	[k'atɕi:]
	去年	[k'jo:len]	停止	[t'eisi:]

1.3.2. 母音無声化による促音化

厦門語話者は日本語の母音無声化の音節を促音のように発音する傾向が見られる。日本語のカ, サ, タ, ハ, パ行の頭子音に後続する母音, とくにその母音が口の開きの狭い母音[i], [ɯ], [ɯ]である場合, さらに同じカ, サ, タ, ハ, パ行の発音が後続すると, 前後の無声子音に挟まれた母音は無声化する場合がある⑥。この母音の無声化は, 母音の口構えだけで声帯の振動がなく, 内緒の話をする時に耳元でささやくような音である。しかし, 口構えだけでなく, 発音に要する一定の時間, いわゆる一拍や一モーラの時間は保っているのである。母音の無声化が上手にできるかどうかは, 現代日本語を歯切れよく話すことができるかどうかにされている程である。厦門語や北京語にはこのような母音の無声化はないため, 聴覚上, 日本語の無声化した母音は聞こえない。このような無声化の音節が語中にある場合, 厦門語話者には無声化音節の頭子音だけが聞こえ,

さらに無声化音節の頭子音が先行し、前の音節の末尾子音のように聞こえる。すなわち、日本語の語中の無声化音節は廈門語話者には促音のように聞こえるのである。従って、廈門語話者の日本語上級者でも、語中の無声化音節を発音する時、母音の無声化から母音の脱落へと変り、さらに無声化音節の頭子音が先行し、前の音節の末尾子音となって、促音のように発音する傾向が見られる。ただし、聴覚上促音のように聞こえるが、廈門語話者のこのように発音される促音の実態は、日本語の促音のような子音の持続、いわゆるほぼ一拍の発音時間を保つ長子音ではなく、ただ音節末尾の閉鎖音にすぎない場合が多い。これは廈門語の音節末尾子音[-p, -t, -k, -ʔ]による干渉である。この問題点は同じ音節末尾子音[-p, -t, -k,]のある広東語話者にも見られる。

例： チュウゴクジン [tɕʰuːgokkɕin] リュウガクセイ [hjuːgak seː]
 ニュウガクキン [ɲuːgǎkkjin]

1.3.3. 子音の逆行同化による促音化

廈門語話者は日本語の語中の音節がカ、サ、タ、ハ、パ行音である場合、その語を促音のように発音する傾向が非常に多く見られる。これは前の音節は後続するカ、サ、タ、ハ、パ行音の頭子音の影響を受けて、後続する頭子音と同じ音、あるいは類似する音が生じ、前の音節の末尾子音となって促音のように発音される一種の逆行同化ともいべき現象である。

例：	以前	[it tsen]	時間	[tɕik kan]
	宇宙	[ut tɕʰuː]	四季	[ɕik kʰi]
	期待	[kʰit tai]	理解	[hik kai][hik:ai]
	規定	[kʰit teː]	旅行	[hʲok:ɕː]
	固体	[kʰot tʰai]	課題	[kʰat:ai]
	古代	[kʰot:ai]	事情	[tɕiɕiɕoː]
	世界	[sek:ai]	招待	[ɕot:ai]
	維新	[iʔ ɕin]	基礎	[kʰis:ɕ]
	火災	[kʰaʔ sai]	自信	[tɕiʔ ɕin]
	氣象	[kʰiɕ:ɕoː]		

上記の外、発音する時の緊張などの影響で、音節と音節の間に声門閉鎖音が

見られることもある。

例： 以内 [i? nai] 社員 [sa ? in]

以上、厦門語話者の日本語発音の問題点を分析してきた。厦門語話者の日本語発音の問題点についてはいろいろな原因があるが、一番大きな原因はやはり厦門語の母語干渉である。上述してきた厦門語話者の日本語発音の問題点は日本語上級者のインフォーマントによるものであるため、初めて日本語の発音を学習する厦門語話者の場合はさらに多くの問題点や困難点を予測しなければならない。このような予測を立てるために、厦門語の音声に関する先行研究の成果を再確認し、とくに日本語の発音を習得する立場から、厦門語の音声と日本語の音声との相違点を明らかにする必要がある。

・注・

- ①今田滋子1989. 『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』p30 を参照。
- ②服部四郎1984. 『音声学カセットテープテキスト』p35 , 詹伯慧1981. 『現代漢語方言』p24 , 城生佰太郎1988. 『音声学』p78 を参照。
- ③詹伯慧1981. 『現代漢語方言』p188, 羅常培1956. 『厦門音系』p5を参照。
- ④本稿では日本語の鼻濁音を「カ[?], キ[?], ク[?], ケ[?], コ[?]」のように表記する。
- ⑤詹伯慧1981. 『現代漢語方言』p173を参照。
- ⑥今田滋子1989. 『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』p81 を参照。

2. 厦門語の音声の記述について

厦門語の音声に関する研究は数多いが、本稿は主として羅常培1956. 『厦門音系』(科学出版社)を参考として、筆者の分析を加え、厦門語話者が日本語の発音を習得する立場から、厦門語の音声を再確認していく。

羅常培1956. 『厦門音系』(科学出版社)による厦門語の音声は下記のように示す。括弧()の中は筆者の訳注である。

廈門語の音声

一. 声母 (音節初頭子音)

p	p'	b	m	
t	t'	l	n	
k	k'	g	ŋ	
ʔ				h
ts	ts'			s
tʃ	tʃ'	dz		

二. 韻母 (音節主音と音節末尾子音)

1. 陰韻 (単母音と重母音)

	a	ɔ	o	e	ai	au
i	iu	ia		io		iau
u	ui	ua		ue	uai	

2. 半鼻韻 (鼻母音)

	ã (ĩõ)	õ	ẽ*	ãĩ	ãũ
ĩ	ĩũ	ĩã			ĩãũ
	ũĩ	ũã		ũãĩ	

3. 陽韻 (音節主音と音節末尾子音)

	am		an		aŋ	ɔŋ
im	iam	in	ian	iəŋ	iaŋ*	iɔŋ
		un	uan		uaŋ*	
	ap		at		ak	ɔik
ip	iap	it	iɛt	iə k	iak*	iɔ k
		ut	uat			

4. 声化韻 (音節主音になる鼻音)

m	ŋ
---	---

* 常用でない韻母。

羅常培1956, 『廈門音系』P9, 10 より

2.1. 厦門語の母音について

厦門語の母音は上記羅維培1956, 『厦門音系』で示したように数多いが, 本稿は厦門語話者が日本語の発音を習得する立場を考慮にいれ, 厦門語の単母音だけを見ることにする。厦門語の単母音を抽出すると, 下記のように6つの母音音素にまとめることができる。

/a/ /i/ /u/ /e/ /o/ /ɔ/

この6つの母音音素について, 下記のように記述することができる。

/a/ : /a/ は単独で子音と音節をなす場合, または[ai], [uai], [au], [iau], [a], [ai], [uai], [an], [ian]の環境にある場合, 基本母音[a]より舌の位置はやや後ろよりであり, 日本語の[a]に近い張唇前舌広母音である。被験資料は朱新建1990を参照。

例: 頭頂 [t'au⁴tin] (頭のてっぺん) 安靜 [an⁴tsin] (静か)
 財産 [tsaisan] (財産) 竹籃 [tinnã] (竹の籠)
 磁鉄 [t'a:t'i?] (磁鉄)

また, /a/ は[ia], [ia], [ua], [au], [iau], [uan], [an], [ian], [at], [ak]の環境にある場合, 基本母音[a]と[α]の中間あたりに位置し, [A]で表記できる。[ua], [uan], [uat][am], [iam], [ap], [iap]の環境にある場合, 基本母音の[α]より舌はやや前よりである。

/i/ : /i/ は単独で子音と音節をなす場合と, 鼻母音[ĩã], [ĩũ], [ũĩ], [ãĩ], [ũãĩ]の環境にある場合と[ɕ], [ɕ', [ɕ]に後続する[i]は基本母音[i]に近い[i]である。日本語の[i]よりやや狭い張唇前舌狭母音である。

例: 讓位 [ŋĩũwi] (位を讓る) 忍耐 [linnãĩ] (忍耐)
 依頼 [i:nãĩ] (依頼) 母是 [mɕi] (そうじゃない)
 親戚 [ɕ'intɕ'jet] (親戚) 進退 [ɕint'e] (進退)

上記以外の環境にある/i/は基本母音より後ろよりの, やや中舌の[I]である。

/u/ : /u/ は単独で子音と音節をなす場合と, [iu], [iu], [au], [iau]の環境にある場合は, 基本母音の[u]に近い[u]であるが, 基本母音[u]より唇はやや開いた[uɔ]である。これは日本語の[ɯ]よりやや狭く, 唇を丸める円唇奥舌狭母音である。

例： 对頭 [tuit⁴au] (目の敵) 不三不四[put san put su] (怪しげな)
 憂愁 [jut⁶ur] (憂愁) 讓位 [ŋj²ŋwi] (位を譲る)

上記以外の環境にある/u/ は基本母音[u] より低い [ɥ] である。

/e/ : /e/ は基本母音[e] とほぼ同じ位置である。従って、日本語の[e] より狭い張唇前舌半狭母音である。

例： 請客 [tɕ⁴jak⁴e] (客を招待する) 身体 [ɕint⁴e] (体)
 免錢 [m²ẽtɕi²] (金の免除)

/o/ : /o/ は基本母音[o] よりやや前よりの位置である。日本語の[o] よりやや狭い円唇奥舌半狭母音である。但し、廈門語の/o/ は前舌高母音[i] に後続し、[io]の環境にある場合、前舌狭母音[i] の影響で舌の位置がさらに前になり、張唇奥舌半狭母音 [ɤ] の音になる。

例： 狗兄狗弟 [kaɔɕjankaoti] (悪党一味) 借書 [tɕiɤ ts⁴e] (本を借りる)
 悪人悪人治 [olanolanti] (悪人で悪人を治める)

/ɔ/ : /ɔ/ は基本母音 /ɔ/ に近い円唇奥舌半広母音である。日本語の[o] は基本母音[o] と [ɔ] の中間、やや前よりの円唇奥舌中母音であるため、廈門語話者からはむしろやや狭い [ɔ] に聞こえる。

例： 鬪志 [tɔ : tɕi] (鬪志) 放晴了 [hɔ tɕi²ja] (晴れてきた)
 交交纏 [kɔ kɔ tĩ] (しつこく纏う)

上記の廈門語の母音は基本母音と比較して羅常培1956(P15) に従うと、別図I「廈門語母音図」のとおり表記できる。

2.2. 廈門語の子音について

廈門語の頭子音は羅常培1956によると、下記のように20個ある。

p, p⁴, b, m, t, t⁴, l, n, k, k⁴, g, ɣ, ʔ, h, ts, ts⁴, s, tɕ, tɕ⁴, dʒ

これは音声学的に廈門語を分析し、記述したものであれば、[s] の口蓋化した音声は[tɕ] と記述しなければならない。また、[dʒ]の音声は現代廈門語には存在しないため、記述する必要はない①。本稿は廈門語の頭子音b/m, l/n, g/ɣ 及び/h/ の記述の問題を中心に、廈門語の子音を見ていく。

2.2.1. 廈門語の頭子音の分布

廈門語の頭子音の分布は別表I「廈門語子音分布表」のとおりである。

「声母」は頭子音を指し、それぞれ「音素」の欄と「音声」の欄で示す。「韻母」はそれぞれ単母音6、重母音10、鼻母音12、音節主音と音節末尾子音40、合せて68個からなる。記号「+」は該当する音声を示し、「-」は該当の音声がないことを示す。

別表I「厦門語子音分布表」は被験資料により頭子音の環境の韻母を68個を抽出したが、まだ不完全である。その分析は他の機会に譲るが、本稿は厦門語話者が日本語の発音を習得する立場に限って利用することにする。なお、該当する音声の語例は省略することにする（この「厦門語子音分布表」は朱新建1988九州大学言語学科に提出したレポート「中国語厦門方言の頭子音b/m, l/d/n, g/ŋ について」（1988年1月九州大学言語学科にて口頭発表）を参考にし、修論朱新建1990の研究を反映して作成したものである）。

2.2.2. 厦門語の頭子音の記述

厦門語の頭子音は下記の通り記述することができる。

音素14個：/p/, /p^ʰ/, /b/m/, /t/, /t^ʰ/, /d/n/, /l/, /k/, /k^ʰ/, /ɣ/ŋ /, /h/, /s/, /c/, /c^ʰ/。

代表異音：/p/：[p]，/p^ʰ/：[p^ʰ]，/b/m/：[b], [m]，/t/：[t]，
/t^ʰ/：[t^ʰ]，/d/n/：[d], [n]，/l/：[l], [r]，/k/：[k]，/k^ʰ/：[k^ʰ]，
/ɣ/ŋ /：[ɣ], [ŋ]，/h/：[ɸ], [ç], [h]，/s/：[s̺], [s]，
/c/：[ts], [tɕ]，/c^ʰ/：[ts^ʰ], [tɕ^ʰ]。

/p/：/p/の音声は[p]である。

[p]は無声無気の両唇破裂音。無声有気の両唇破裂音/p^ʰ/と対立をなす。IPAの無声の両唇破裂音[p]と同じであるが、厦門語の場合は北京語と同じように、有気が無気かは弁別的である。厦門語の[p]の分布は別表のとおりである。

例：本来 [pun lai]（本来） 不三不四 [put san put su]（怪しげな）
布碎 [pɔ ts^ʰui]（きれ）氷櫃 [piŋ tu]（冷蔵庫）
放尿 [paŋ hɔ]（小便をする）

/p^ʰ/：/p^ʰ/の音声は[p^ʰ]である。

[p^ʰ]は無声有気の両唇破裂音。無声無気の両唇破裂音[p]と対立をなす。日本語には、普通、語頭のP行音は有気のパ行音[p^ʰ]である。厦門語の[p^ʰ]の分布は別表I

のとおりである。

例： 拍官司 [p⁴a kuan ɕi] (告訴する) 打獵 [p⁴a raʔ] (狩獵)
弄破鼎 [lɔŋ p⁴a tʃã] (釜を壊す)

/b/m/ : /b/m/ の音声は [b] と [m] である。

[b] は有声の両唇の入破音である。両唇でややゆるい閉鎖をつくり、口腔に溜っている空気をのみこむようにして喉頭が下がる運動をし、その圧力で声帯を振動させると同時に、流れでる気流で両唇の閉鎖を破って破裂を生ずる音である。両唇の閉鎖がゆるいため、口腔内の圧力も低く、出わたりの破裂も弱い。廈門語の入破音は、両唇の閉鎖は強く口腔内の圧力が高い、呼気を肺臓から勢いよく出すと同時に声帯を振動させ、出わりに著しい破裂を生ずる有声音の [b] とは異なる音である。廈門語には入破音は [b] の外、朱新建1990で取りあげた [d] と、後述の [g] がある。同じ閩南方言の分岐である海南省海口方言には入破音が存在するとの指摘があるものの、廈門語の入破音の事実はこれまでの先行研究では指摘していない。廈門語の入破音については、筆者は廈門語の調査をしたときに廈門語話者に習って覚えたものであるが、海口方言話者に入破音の発音を聞いたら、筆者の聴覚印象では、海口方言の入破音は廈門語の入破音と全く同質のものが分かった②。例をあげると次のとおりである。

海口方言：半日 [bua ʒit] (半日間) 日本 [ʒit buen] (日本)
水牛 [tui ŋu] (牛) 搭車 [da ɕa] (車に便乗する)
8 [bi] (八)

[b] は非鼻音の前にしか現れず、[m] と相補分布をなしている。

例： 麦穗 [be sui] (とうもろこし) 烏白淨 [ɔ beɪ ɕi] (いじみあう)
無柱柱 [bɣ tu tu] (そうとは限らない)

[m] は両唇の鼻音。IPA の [m] であるが、両唇による閉鎖がややゆるい。[m] は鼻音の前にしか現れず、[b] と相補分布をなしている。また、[m] は音節主音 [m̩] になることがある。

例：大罵 [tua mēi] (口喧嘩する) 礼貌 [re mǎi] (礼儀)
拓煤炭 [t⁴u? mēi t⁴uag] (石炭を掘る) 無对 [m̩tju] (間違っている)

[b] と [m] は日本語や他の言語から見れば全く異なる2つの音が相補分布の関

係にある特徴をもっている。[b] と [m] のこの特徴を示し、音素として、/b/m/ を立てる。後述の [d] と [n], [g] と [ŋ] についても同じ理由でそれぞれ音素として /d/n/, /g/ŋ/ を立てることができる。

/t/ : /t/ の音声は [t] である。

[t] は無声無気の前部歯茎の破裂音。有気の [tʰ] と対立をなす。日本語の [t] は調音をするときに声門がやや開いている点では異なるところである。

例： 猪頭 [titʰou] (フタの頭) 点滴 [tjam tiʔ] (水滴が滴る)
甘珍 [kamtĩ] (美味しい) 一帶 [it tai] (一帶)

/tʰ/ : /tʰ/ の音声は [tʰ] である。

[tʰ] は無声有気の前部歯茎の破裂音。無気の [t] と対立をなす。

例： 推拿 [tʰuinã] (あんま) 天才 [tʰitsai] (天才)
大体 [taitʰe:] (大体) 通信 [tʰɔŋ sin] (文通)

/d/n/ : /d/n/ の音声は [d] と [n] である。

[d] は有聲の前部歯茎の入破音。舌尖と前部歯茎による閉鎖がゆるい。[n] と相補分布をなしている。

例： 農民 [dɔŋ mĩ] (農民) 竹籠 [tietdou] (竹の籠)
一粒 [tɕipdiap] (一粒) 害人 [dueraŋ] (女性が喧嘩する)

[n] は両唇の鼻音。[n] と相補分布をなしている。厦門語の [n] は舌尖と前部歯茎による閉鎖がゆるい上に、口蓋帆の垂れ下がり具合もゆるいため、後続する母音の鼻音化の有無によって [d] になったり、[n] になったりする。これは、日本語の鼻音 [n] との異なるところである。

例： 忍耐 [himnãi] (忍耐) 頭腦 [tʰaunãũ] (頭腦)
依頼 [i:nãi] (依頼) 努力 [nũhit] (努力)

/l/ : /l/ の音声は [l] と [r] である。

[l] は有聲のやや破裂的な側面音であるが、破裂の見られる点は IPA の [l] とは違う。これは日本語の弾き音の異音である [l] とは、同じ破裂の見られる点は非常に似ている。

例： 自然 [tsutjan] (自然) 鯉魚 [hiçi] (鯉)
合理 [hapɰi] (合理) 日本 [hitpen] (日本)

[r]は有声の後部歯茎の弾き音。日本語のラ行の頭子音に非常に似ている。ただし、廈門語の[r]を調音する時、舌尖に力が入っていない点では日本語のそれと異なる点である。

例： 打獵 [p'ara?] (狩獵) 力氣 [rak'i:] (力)
 在室女 [tsaiŋje? ru] (生娘) 熱心 [reŋcim] (熱心)

[t] と [r] は上記の [d] と [n] とは相補分布をなしていることは、朱新建1990に述べた。音韻論的に記述する場合は [l], [r], [d], [n] は音素として d/n/l を立てることができるが、本稿にかぎって、廈門語話者が日本語の発音を習得する立場から、音素としてそれぞれ /d/n/, /l/ を立てる。その理由としては別表 I 「廈門語子音分布表」でも分るように、語彙は [l] のほうが多く、「普通話」(北京語をベースとした中国民族共通語のこと)の普及で廈門語話者が [l] の発音になりつつある傾向が見られるとの報告がある③。また、音声の面から見ても調音方法は [t] は入破音の [d] とは異なるし、また [d] と [n], [b] と [m], [g] と [ŋ] は相補分布をなす同じ入破音と鼻音のグループであり、体系的に整っている。こういった理由で、また廈門語話者が日本語の発音を習得する立場を考慮にいれ、あえて廈門語の /l/ を音素として立てる試みをしたのである。

/k/ : /k/ の音声は [k] である。

[k] は無声無気の軟口蓋破裂音である。無声有気の軟口蓋破裂音 [k'] と対立をなしている。語中にある日本語の力行音にこの音が見られる。

例： 到底 [kau tui] (結局) 骨頭 [ku? 'tau] (骨)
 鷄帝 [kue t' i] (鷄が鳴く)

/k'/: /k'/ の音声は [k'] である。

[k'] は無声有気の軟口蓋破裂音。無声無気の軟口蓋破裂音 [k] と対立をなす。語頭にある日本語の力行音にこの音が見られる。

例： 正確 [tɕ' k'a] (正確) 齒科 [k' i kɕ] (齒科)
 刺客 [tɕ' ik'e] (殺しや) 力氣 [rak'i:] (力)

/g/ŋ / : /g/ŋ / の音声は [g] と [ŋ] である。

[g] は有声の軟口蓋の入破音である。IPA のこの音と同じ音である。[g] は [ŋ] と相補分布をなしているが、[g] は非鼻母音の前に現れ、鼻母音が後続

する場合、[ɣ] は鼻音化し、[ŋ] に変化する。[ɣ] は調音点は日本語のガ行音に似ているが、調音方法が異なり、日本語のガ行音とは違う音である。入破音を調音する時、空気をのみこむようにして喉が下がる運動をする圧力で声帯を振動させるが、厦門語の[ɣ] を調音する時に喉が下がる運動の感覚はとくによく分る。

例： 芋 [ɣu] (くわで掘る) 業 [ɣjap] (職業)
 岸 [ɣan] (岸) 逆 [ɣik] (抵抗)
 驗 [ɣjam] (チェックする)

[ŋ] は有声の軟口蓋鼻音。鼻母音の前にしか現れず、[ɣ] と相補分布をなしている。日本語の語中に見られるガ行鼻濁音はこの音と同じ。また、[ŋ] は音節主音の[ŋ] になることがある。

例： 原料 [ɣũän ɲjãũ] (原料) 兩個 [nẽ ɣẽĩ] (二人)
 替換 [t'ui ɣũã] (交替する) 黄 [hɣ] (黄, 苗字)

/h/ : /h/ の音声は [ɸ], [ç], [h] である。

[ɸ] は無声の両唇摩擦音。厦門語の声門摩擦音[h] は弱い摩擦音であり、舌位の高い母音[u] が後続する場合、[h] は唇音化し、両唇摩擦音 [ɸ] に変化する。聴覚上、日本語のフの発音に非常に似ている。

例： 知恵 [ti ɸui] (知恵) 煙酒 [ɸuen tɕu] (酒とタバコ)
 富饒 [ɸu jau] (ゆたか) 会場 [ɸui tɕɔŋ] (会場)
 訓練 [ɸuennjã] (訓練) 発生 [ɸuaʔ tɕiŋ] (発生)

[ç] は無声の硬口蓋の摩擦音。厦門語の声門摩擦音[h] は、後続する前舌狭母音[i] の影響を受けて口蓋化し、硬口蓋摩擦音の[ç] に変化する。日本語の「ヒ」の発音に限り無く似ている。

例： 魚刺 [çi tɕ'i] (魚の骨) 耳子 [çi jã] (耳)
 現在 [çjantsai] (現在) 献身 [çiansin] (献身)

[h] は声門摩擦音。北京語の/h/ は摩擦の著しい口蓋垂音[X] であるが、厦門語の[h] は摩擦の弱い声門音である。厦門語の[h] は日本語の「ハ、ヘ、ホ」の頭子音に非常に似ている。

例： 複雜 [hok tsa] (複雑) 履歴 [hɔ kɰik] (履歴)
 電風扇 [tjanhɔ ŋ tɕĩ] (扇風機) 火箸 [heti] (火箸)

/c/ : /c/ の音声は [ts] と [tɕ] である。

[ts] は無声無気の歯茎の破擦音。[tsʰ] は無声有気の歯茎の破擦音 [tsʰ] と対立をなしている。日本語の語中のツの発音に同じ [ts] が見られる。

例： 報水 [pɕ : tsui] (密告) 火災 [he : tsai] (火災)
 心臓 [ɕimtsɔŋ] (心臓) 混雑 [ɕuntɕa] (混雑)

[tɕ] は無声無気の歯茎硬口蓋の破擦音。[tɕ] は [ts] の口蓋化した音であり、無声有気の歯茎硬口蓋破擦音 [tɕʰ] と対立をなしている。日本語の語中のチの発音に同じ [tɕ] が見られる。

例： 果子 [ke : tɕi] (果物) 鬼精 [kui : tɕi] (おしゃべり)
 烏白浄 [ɔ : bei : tɕi] (いじみあう) 天井 [tʰ : tɕi] (中庭)

/cʰ/ : /cʰ/ の音声は [tsʰ] と [tɕʰ] である。

[tsʰ] は無声有気の歯茎の破擦音。[tsʰ] は無声無気の歯茎の破擦音 [ts] と対立をなしている。日本語の語頭のツの発音に同じ [tsʰ] が見られる。

例： 厠池 [tsʰ : eti] (トイレ) 借冊 [tɕɕ : tsʰ : e] (本を借りる)
 警察 [kɕintsʰ : ai] (警察) 催促 [tsʰ : ui : tɕɔ] (催促)

[tɕʰ] は無声有気の歯茎硬口蓋破擦音。[tɕʰ] は [tsʰ] の口蓋化した音であり、無声無気の [tɕ] と対立をなしている。日本語の語頭のチの発音に同じ [tɕʰ] が見られる。

例： 侵占 [tɕʰ : im : tɕam] (侵略) 刺客 [tɕʰ : ikʰ : e] (殺しや)
 千万 [tɕig : mǎ] (必ず) 沖水 [tɕʰ : ɔŋ : tsui] (水を浴びる)

/s/ : /s/ の音声は [ɕ] と [s] である。

[ɕ] は無声の歯茎硬口蓋の摩擦音。[s] は後続する [i] の影響を受けて口蓋化し、歯茎硬口蓋の摩擦音 [ɕ] に変化する。日本語のシの発音に似ている。

例： 身体 [ɕintʰ : e] (体) 安心 [ansim] (安心)
 教室 [kouɕep] (教室) 小説 [ɕousuai] (小説)

[s] は無声の前部歯茎の摩擦音。日本語のサ、ス、セ、ソの頭子音と同じ音である。

例： 不三不四 [putsanputsu] (ろくでなし) 家事 [kasu:] (家事)
 真水 [tɕi : sui] (綺麗) 登山 [tig : suan] (登山)

2.2.3. 厦門語の末尾子音の記述

別表Ⅰ「厦門語子音分布表」のように、厦門語の音節末尾子音は下記のようにまとめることができる。

鼻音末尾子音	m	n	ŋ
閉鎖音末尾子音	p	t	k ?

厦門語の鼻音末尾子音の場合、同じ鼻音末尾子音が日本語にもあるが、日本語の鼻音末尾子音は後続する音節の影響を受けて変化するものである。例えば、後続する音節の頭子音は[b]である場合、前の鼻音が[b]の逆行同化の影響を受けて[m]になる。同じように、後続する頭子音は[t], [d]なら鼻音末尾子音が[n]に、[k], [g]なら[ŋ]になる。鼻音末尾子音は[m]から[n]に、または[ŋ]に変化したところで、意味が異なることにはならない。一方、厦門語の場合は、下記の例のように鼻音末尾子音は意味の区別をする。

例：心 [ɕim] 新 [ɕin] 成 [ɕiŋ]

厦門語の閉鎖音末尾子音の場合、意味の区別をする外、音声的には、後続する音節と一つの語を形成する時、末尾子音の発音は聴覚印象では、日本語の促音のように聞こえる。厦門語の末尾子音は文字通り音節の末尾に付属し、後続する音節とは関係がなく、発音は短促の閉鎖でおわる。日本語の促音は意味の区別をするが、前後の音節と密接な関係にある。音声的には、厳密に言うと、日本語の促音は単に閉鎖をつくるだけではなく、その閉鎖をいわゆる一拍の時間で持続させなければならない。この一拍の時間は日本語のリズムの重要な単位である。厦門語の閉鎖音末尾子音の例は次のようである。

例： 蝕	[ɕiʔ]	(腐蝕)	実	[ɕit]	(実は)
習	[ɕip]	(習う)	席	[ɕik]	(席)

2.3. 厦門語の半母音について

これまでの厦門語の先行研究によれば、厦門語の母音[i], [u]は、発音時間が長いので半母音になる傾向が見られないとされている④。筆者の調査では、聴覚印象ではむしろ半母音の[j], [w]が多い。

例： 肥漬漬	[wei tɕiʔtɕiʔ]	(肥えている)	維新	[wi ɕin]	(維新)
液体	[japt'e]	(液体)	元年	[wan n̥]	(元年)

2.4. 廈門語の音素と代表的異音

以上の分析をもとに、廈門語の音素と代表的異音は下記のとおりに示すことができる。記号はそれぞれ 1./ / は音素, 2. →[] は 1./ / の音素の異音, 3./_ は 2.[] の異音の環境, 4. { } は 3./_ の環境の諸条件 (母音に限る), 5. c は子音, 6. v は母音, \tilde{v} は鼻母音, を表す。

一. 母音音素と代表的異音

/a/ → [a] / { i, u } _ { i, u, n }
 /i/ → [i] / { u, a, ua, } _ { a, u }
 /u/ → [u] / { i, a, ia } _
 /e/ → [e]
 /o/ → [ɤ] / i _ , → [o]
 /ɔ / → [ɔ]

二. 子音音素と代表的異音

/p/ → [p]
 /p' / → [p']
 /b/m/ → [b] / _ v , → [m] / _ \tilde{v}
 /t/ → [t]
 /t' / → [t']
 /d/n/ → [d] / _ v , → [n] / _ \tilde{v}
 /l/ → [l] , → [r] / _ { u, a, e, ɔ, j }
 /k/ → [k]
 /k' / → [k']
 /g/g / → [g] / _ v , → [ŋ] / _ \tilde{v}
 /h/ → [ɸ] / _ u , → [ç] / _ i , → [h] / _ { a, e, o, ɔ }
 /c/ → [ts] / _ i 以外, → [tɕ] / _ i
 /c' / → [ts'] / _ i 以外, → [tɕ'] / _ i
 /s/ → [ɕ] / _ i , → [s] / _ i 以外

三. 音節末尾子音

/-m/ → [-m] / { a, i, ia } _

- /-n/ → [-n]/ {a, i, ia, u, ua, ɔ } _
 /-ŋ / → [-ŋ]/ { i, ia, io, iɔ } _
 /-p/ → [-p]/ {a, i, ia } _
 /-t/ → [-p]/ {a, i, ia, u, ua } _
 /-k/ → [-k]/ {a, i, ia, io, iɔ } _
 /-ʔ/ → [-ʔ]/ {a, i, io, u, ua, ue, ui, e, o, m, ŋ } _

四、半母音

- /j/ → [j]
 /w/ → [w]

・注・

- ① 羅常培1956『厦門音系』の「再版序言」を参照。
- ② 海南省海口方言の入破音について、海口市出身の留学生張さん、28才、歐陽さん、28才に聞いた。録音テープは朱新建1991を参照。
- ③ 詹伯慧1981『現代漢語方言』p188を参照。
- ④ 詹伯慧1981『現代漢語方言』p192を参照。

3. 日本語の音声の記述について

日本語の音声に関する先行研究の成果は枚挙に暇がない。本稿は主として今田滋子1989を参考とし、厦門語話者が日本語の発音を習得する立場から、下記の問題点を中心に、筆者の分析を加えて日本語の音声を見ていく。

3.1. 口蓋化子音の記述と表記について

日本語の口蓋化子音は、イ段音のキ、シ、チ、ニ、リ、ギ、ジ(チ)、ピ、ビ、拗音のキヤ、シャ、チャ、ニヤ、ヒヤ、ミヤ、リヤ、ギヤ、ジャ(チャ)とびゃ、びゃ行音の頭子音である。

上記の発音の頭子音は、後続する前舌高母音[i]や半母音[j]の影響を受けて、前舌面が硬口蓋のほうへ持ちあがり、同じ行の他の発音の頭子音とは異なる子音に変化する。日本語の発音を習得する立場からは、このような口蓋化子音を正確に記述する必要がある。例えば、「シ、チ、ジ」の頭子音の音声の実態はそれ

ぞれ円唇の [ʃ], [ʧ], [dʒ] か、それとも非円唇の [ç], [tʃ], [dʒ] かは、学習者にとっては非常に大事な問題である。英語話者にとっては、円唇の [ʃ], [ʧ], [dʒ] が都合がよく、中国語話者にとっては非円唇の [ç], [tʃ], [dʒ] が都合がよいかもかもしれないが、英語話者でも、日本語の「シ、チ、ジ」の頭子音の発音は英語の円唇の [ʃ], [ʧ], [dʒ] と全く同じ発音であると思いこんで習得してしまい、上級者になっても正しい日本語の発音が習得できないことになる可能性が充分ありうる。「シ、チ、ジ」の頭子音の音声の実態は非円唇の [ç], [tʃ], [dʒ] であることは朱新建1990に述べてある。本稿は、「シ、チ、ジ」の頭子音の音声の実態は非円唇の [ç], [tʃ], [dʒ] である事実に従い、表記はそれぞれ非円唇の [ç], [tʃ], [dʒ] とする。

「ニ」の口蓋化した頭子音は、「ヒ」の頭子音のように硬口蓋音 [ɲ] までなっていない。本稿では修論の考え方を少し修正し、「ニ」の口蓋化した頭子音を [ɲ̥] と表記する。[ɲ̥] の口蓋化記号になぞって、「ミ」の口蓋化した頭子音を [ɲ̥] と表記する。「キ」の口蓋化した頭子音を [k̥] と表記し、「リ」の口蓋化した頭子音を朱新建1990のとおり [ɽ] とする。

拗音の口蓋化音は、シャ、ジャ、チャ、ニャ、ヒャ、ミャ行音の外に、口蓋化音記号の一つである [j̥] をつけて表記する。例えばビャ行口蓋化音は [bj̥a] と表記する。

3.2. 日本語の音素と代表的異音

日本語の音素と代表的異音は今田滋子1989の研究成果をベースとして廈門語話者が日本語の発音を習得する立場を考慮に入れ、下記のように示す。なお、本稿は外来語の音声表記を除外して考える。

一. 母音音素と代表的異音

/a/ → [a] ア段音、ア段拗音

/i/ → [i] イ段音

/u/ → [u] ウ段音（下記以外）、→ [ɯ] / {s, t, z} __ ス、ツ、ズ、ヅ

/e/ → [e]

/o/ → [o]

二. 子音音素と代表的異音

- /p/ → [p] バ, ブ, ベ, ボ, → [pɿ]/ __ {i, j} ピ, ビャ行音
 /b/ → [b] バ, ブ, ベ, ボ, → [bj]/ __ {i, j} ビ, ビャ行音
 /m/ → [m] マ, ム, メ, モ, → [mɿ]/ __ {i, j} ミ, ミャ行音
 /t/ → [t] タ, テ, ト, → [tɿ]/ __ {i, j} チ, チャ行音, → [ts]/ __ ㄣ ツ
 /d/ → [d] ダ, デ, ド, → [dɿ]/ __ {i, j} ヂ, チャ行音 → [dz]/ __ ㄣ ツ
 /n/ → [n] ナ, ヌ, ネ, ノ, → [nɿ]/ __ {i, j} ニ, ニャ行音
 /r/ → [r] ラ, ル, レ, ロ, → [rɿ]/ __ {i, j} リ, リャ行音
 /k/ → [k] カ, ク, ケ, コ, → [kɿ]/ __ {i, j} キ, キャ行音
 /g/ → [g] ガ, グ, ゲ, ゴ, → [gɿ]/ __ {i, j} ギ, ギャ行音,
 → [ŋ] カ, ク, ケ, コ (語中), → [ŋɿ]/ __ {i, j} キ, キャ行音 (語中)
 /h/ → [h] ハ, ヘ, ホ, → [ɣ]/ __ {i, j} ヒ, ヒャ行音, → [ɸ]/ __ ㄣ フ
 /s/ → [s] サ, ス, セ, ソ, → [c]/ __ {i, j} シ, シャ行音
 /z/ → [dz] ザ, ズ, ゼ, ゾ, → [dɰ]/ __ {i, j} ジ, ジャ行音

三. 特殊音素と代表的異音

- /N/ → [m]/ __ {p, b, m}, → [n]/ __ {t, d, n, r}, → [nɿ]/ __ nɿ,
 → [ŋ]/ __ {k, g, ɣ}
 /Q/ → [pɿ]/ __ p, → [tɿ]/ __ t, → [kɿ]/ __ k, → [sɿ]/ __ s
 → [ɛɿ]/ __ ɛ
 /R/ → [ɿ]/V__

四. 半母音音素と代表的異音

- /j/ → [j] /w/ → [w]

4. 厦門語と日本語の音声の比較

厦門語と日本語の音声の相違点について、調音点と調音方法から似ているものと異なるものを類別して比較し、厦門語話者が日本語の発音を習得する際の利点と困難点を見ていく。

4.1. 母音の比較

前述の 3.2 で示した日本語の母音音素に近い厦門語の母音音素を抽出すると、同じような /a, i, u, e, o/ がある。中では、厦門語の /a, i, e, o/ の音声は日本語

のそれに非常に似ている。ただ、廈門語の[i] は日本語のそれより唇の開きがやや広く、舌の位置がやや狭い。廈門語の[e] も日本語のそれより唇の開きがやや広く、舌の位置がやや狭い。これさえ注意すれば、日本語の[a],[i],[e] の発音の導入はさほど問題ではない。日本語の[o] はややあ広いため、廈門語話者には廈門語の[ㄛ]に聞えることがあるので、注意してほしい。問題は日本語の/u/の発音である。

日本語の/u/の音声は[ɯ]と[ü]であり、いずれも非円唇の母音である。円唇の[u]は小学国語の発音にもあるように①増えつつあるが、非円唇の[ɯ]と[ü]は日本語の共通語として一般的であり、日本語教育では指導すべき発音である②。廈門語の/u/は基本母音[u]よりやや唇の開いた円唇奥舌狭母音であり、日本語のような非円唇の[ɯ]と[ü]がないため、廈門語話者には日本語の非円唇の[ɯ]と[ü]の習得は一番困難であると予測できる。廈門語と日本語の母音をD. Jonesの基本母音と比較して見ると別図Ⅱ「母音比較図」で示することができる。

4.2. 子音の比較

4.2.1. 調音点も調音法も似ている子音

廈門語と日本語の調音点も調音法も似ている音声を抽出すると、下記のようになる。

日本語の子音：[p],[t],[k],[s],[ts],[ç],[ɕ],[tɕ],[ç],[ɸ],[h],[r],[ɸ]

廈門語の子音：[p],[t],[k],[s],[ts],[ç],[ɕ],[tɕ],[ç],[ɸ],[h],[r],[ɸ]

上記12個の子音は非常に似ているものである。これは日本語の発音の習得の利点であり、発音の導入もしやすい。問題は、上記の中の無声の破裂音であるが、日本語の場合は無声の破裂音と有声の破裂とでは区別するが、廈門語では無声の破裂音で有気と無気とで区別する。すなわち、日本語の無声の破裂音は有気が無気かに発音されているかを気になる。これについてきちんと説明すれば、問題にならないことである。また、両唇摩擦音[ɸ]と声門音[h]は、廈門語のほうが摩擦がやや強いが、あまり問題にならないはずである。

4.2.2. 調音点は似ているが、調音方法は異なる子音

日本語の子音 : [b], [m], [d], [n], [g], [ŋ], [dz], [dʒ]

厦門語の子音 : [b̥], [m̥], [d̥], [n̥], [g̥], [ŋ̥], [ts], [tʃ]

上記の子音は調音点は似ているが、調音方法は異なるもので、厦門語話者の日本語発音をみても、一番問題のある発音である。前述したように、厦門語の [b̥], [d̥], [g̥] は有声の入破音であり、調音点は日本語の有声の破裂音 [b], [d], [g] に似ているが、喉頭が下がる際の弱い圧力で声帯を振動させるため、有声の度合いが弱く、また、調音点の閉鎖もゆるいため、出わたりの破裂も弱い。厦門語の鼻音 [m], [n], [ŋ] は聴覚上、日本語のそれに似ているが、これは後続する母音は鼻母音であるという必要条件がある。また、調音点の閉鎖もゆるいため、はっきりした鼻音にならない。言わば、後続する鼻母音の影響で、厦門語の [b̥], [d̥], [g̥] が鼻音化して [m], [n], [ŋ] になったとも解釈できる。厦門語話者の日本語発音の問題点の中で、バ行音とマ行音の混同、ナ行音とラ行音の混同がその証拠である。日本語の有声の破擦音 [dz], [dʒ] は厦門語にない。この発音を厦門語話者は、調音点が似ているが、調音方法がまったく異なる無声無気の破擦音 [ts], [tʃ] のように発音する。日本語の有声音の発音方法の指導はなによりも重要である。

4.2.3. 子音習得の困難点

前述の厦門語話者の日本語発音の問題点の中で、厦門語話者は日本語のガ、ザ、ダ、バ行音と拗音のギャ、ジャ（チャ）、ピャの有声の頭子音の発音を、厦門語の調音点の近い無声無気音のように発音する傾向を指摘したが、厦門語には日本語のような有声の破裂音 [b], [d], [g] と有声の破擦音 [dz], [dʒ] が体系的に存在しないため、厦門語話者にとってはこのような子音の習得は一番困難である。日本語のガ、ザ、ダ、バ行音と拗音のギャ、ジャ（チャ）、ピャの発音を習得する際の指導重点は調音点よりも、調音方法である。

厦門語話者の日本語の子音習得のもうひとつの大きな問題点は、日本語のバ行とマ行、ラ行とナ行、ガ行とカ行音の混同である。発音の指導にあたっては、有声音の発音方法の練習を徹底に行なうと同時に、厦門語の頭子音 b/m, d/n, g/ŋ は後続する鼻母音の有無によって子音の交替をするといった特殊的な音声現象を知っていれば、発音指導のプラスになる。

4.3. 特殊音素と半母音について

日本語の子音には鼻音/M/, 長子音/Q/, 長音/R/ のような特殊子音音素がある。前述したように、廈門語には音節末尾子音の鼻音と閉鎖音があり、日本語の/M/ と/Q/ の習得はさほど困難ではない。ただ、日本語の促音は発音の時間がポイントである。つまり、日本語の促音の発音は他の音節と同じように、一拍か一モーラの時間をかけて、子音の閉鎖を持続させなければならない。この点は促音の発音を指導する時に特に注意しなければならない。

日本語の長母音/R/ の習得は、廈門語話者にとってはもはや一番困難を感じる問題の一つである。長母音は日本語では意味の区別をするが、廈門語の場合は、閉鎖音の音節末尾子音が後続する場合、母音を短く発音しなければならないが、末尾子音を伴わない場合、母音の長短は任意的なものであるため、日本語の母音と長母音は廈門語話者には混乱が起こりやすいのである。また、日本語の半母音には[i] と[w] がある。廈門語にもそれに近い[i] と[w] があるが、廈門語の[i] と[w] の発音時間は日本語のより長い点は異なるところである。

以上、廈門語と日本語の音声を比較し、廈門語話者が日本語の発音を習得する際の利点と困難点を見てきた。廈門語と日本語の音声の相違点を別表Ⅱ「廈門語・日本語子音比較表」のようにまとめることができる。

・注・

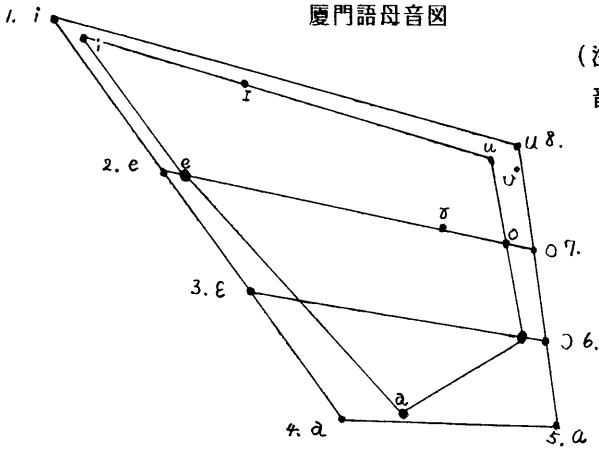
- ①文部省検定済教科書・17教出・国語 139. 平成2年1月20日。「改定しようかくこくご1上」(教育出版) p12 を参照。
- ②今田滋子, 1989. 『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』p30 を参照。

5. おわりに

本稿は廈門語話者の日本語発音の習得に視点を置いて、廈門語話者の日本語発音の問題点に着眼して、廈門語の音声の実態を明らかにし、廈門語と日本語の音声の相違点を比較することによって、廈門語話者が日本語発音を習得する際の利点と困難点を分析してきた。これからの課題としては、廈門語話者が日本語のアクセントやイントネーションなどを習得する際にどんな困難にぶつかるか、それを解決するための有効的な指導法はどうであつたらいいかなどについて、研究を進めたい。

付：

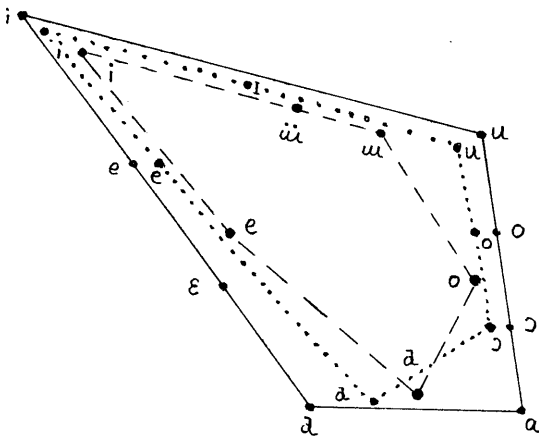
別図Ⅰ：廈門語母音図



(注：四角形の外は基本母音，内は廈門語の母音)

別図Ⅱ：母音比較図

母音比較図



(注：外側は基本母音，
内側は破線は日本語，
点線は廈門語の母音)

別表I 廈門語子音分布表

別表I	廈門語子音分布表																	
声母	p	p'	t	t'	k	k'	b/m	d/n	g/ŋ	l	c	c'	s	ʃ	h			
音	p	p'	t	t'	k	k'	b	d	g	l	ts	ts'	s	ʃ	h	h	h	
母	p	p'	t	t'	k	k'	m	n	ŋ		ts	ts'	s	ʃ	h	h	h	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
單	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
母	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
韻	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
母	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
節	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
主	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
と	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
節	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
未	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
尾	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
子	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	
音	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	

注：(c) は [t] の「ゆれ」を示す。

別表Ⅱ

廈門語・日本語子音比較表

語別 調音点 調音法		日本語								廈門語								特殊音素			
		両唇音	歯茎音	歯茎硬口蓋音	硬口蓋音	両唇硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音	両唇音	歯茎音	歯茎硬口蓋音	硬口蓋音	両唇硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音				
		日本語				廈門語				日本語		廈門語									
鼻音	有声	m n ŋ				ŋ N				m n ŋ				ŋ				撥音	m	末	ɱ
	無声	p t				k				p' t'				k'					n	子	n
破裂音	無声	p t				k				p' t'				k'				/N/	ŋ	音	ŋ
	有声	b d				g				p t				k				-N	N	-c	
摩擦音	無声	ɸ s ɕ ʃ				h				ɸ s ɕ ʃ				h							
	有声	z ʒ																促音	D:	末	D
破裂音	無声	ts tɕ								ts' tɕ'								音	t:	子	t
	有声	dʒ ʒɕ								ts tɕ								/Q/	k:	音	k
弾き音	有声	r								r								C:V	s:	-c	?
側面音	有声	ɸ								ɸ											
入破音	有声									b d				g'				長	/R/		
半母音	有声	j w								j w								音	v:		